# 平成27年度2学期センターマネジメント

| | |
|---|---|
| 学校教育目標 | 校訓「みずから学び、みずから鍛え、みんなと生きる」を体現する生徒の育成 |
| 重点努力目標 | (1) 生活のリズムや生活習慣を身につけさせ、学習規律や学習態度の確立、学習習慣を定着させることによって、基礎学力の向上をめざす。<br>(2) 人間関係を育む学級経営、学習指導、学校行事、生徒会行事、部活動を通して、「学校が楽しくて満足している」と実感できる、共に生きる集団づくりをめざす。<br>(3) 生徒一人ひとりが、価値ある存在として実感することができ、自分の生き方に夢や希望、誇りをもって、「社会とどう向き合い、社会とどう関わっていくか」を形成し、自己実現を図っていくことのできる学校づくりをめざす。 |
| 分掌重点目標 | ①本校が岩美町の「人づくり」「地域づくり」の一翼を担い、特に教育面、文化面においてセンター的な役割を果たす。<br>②そのために、地域住民や地域機関との連携を強化しながら、地域住民の一員としての自覚が高まる生徒の育成を目指す。<br>③岩美町が推進するスクラム教育の一翼を担う。 |

| 目指す学校・生徒の姿 Plan | 分野別目標 | 1学期成果と課題・提言 | 2学期の常時活動 Do | 9　月 | 10　月 | 11　月 | 12　月 | 到達目標 | 評価基準 (Check) | 成果と課題・提言 | 三学期の重点目標 | 来年度への提言 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①岩美町や自分の育った地域を愛し、郷土に誇りと自信を持つ生徒<br>②岩美町内外の人的資源を有効活用し、将来に夢や希望をもった生徒の育成に努める教師 | 地域の人材を活用した教育活動を企画・実践することを通して、地域を愛し、郷土に誇りと自信を持った生徒を育成する。 | ワクワクチャレンジ岩見については、昨年度に引き続き、継続して地域に支援をいただいた。<br><br>1年生のふるさと先生に学ぶは、今年度は形態が違うので新たに開拓の必要がある。<br><br>3年生の修学旅行では地元出身の方の支援も得られた。 | ②1年「ふるさと先生とともに」 | 事業所との打ち合わせ<br>事前学習 | 「ふるさと先生とともに」実施 | 「ふるさと先生とともに」のC&Aを行い次年度への引き継ぎ資料作成 | 「ふるさと先生とともに」のC&Aを行い次年度への引き継ぎ資料作成 | 地域人材の発掘に努め、協力企業への協力を要請し、参加事業所の増加をはかり、地域の人材を活用できる。 | 地域人材、地域企業の協力を得ることができる。 | | | |
| | | | ②2年「修学旅行に向けて」 | 学年として3日間の日程等を検討 | 修学旅行入札文書を各旅行代理店に送付<br><br>学年としての三日間の日程等の案を作成 | ・修学旅行実行委員の募集<br><br>・入札→平成28年度修学旅行担当旅行代理店決定 | 第一回修学旅行実行委員会の実施 | | | | | |
| | | | ③3年休日補充学習 | 実施計画についての | 地域人材についての情報収集を行う。 | 日程および協力者の確定 | 生徒および保護者へ実施計画等について周知 | 参加生徒の集約と確定 | 一月から休日補充学習の実施 | | | |
| ②来校いただくことによって保護者・地域の方々から信頼される学校を目指す教師 | 保護者、地域の方々の学校運営参画意識の高揚につながる教育活動の創造を行う。 | 若鷲見守りDAYは保護者さんを中心に継続して参加していただいている。人数的な課題はクリアしている。<br><br>若鷲あいさつについてはクラスによってばらつきはあるが、早朝にもかかわらずどのクラスも5人以上は参加していただいている。 | 保護者・地域の方々の学校運営への参画意識の高揚<br>①PTA関係行事（運動会、文化祭）　②若鷲あいさつ見守り隊　③若鷲見守りDAY | ①運動会（9/5）、文化祭（10/31）<br>参加への呼びかけ（学年・学級通信等）→参加率集約→振り返り | | | | ・「PTA関係行事」「若鷲校内見守り隊」「若鷲あいさつ見守り隊」等、保護者・地域の方々を巻き込んだ活動が定着する。 | ・PTA関係行事（運動会、文化祭）への参加率が50%以上<br>・若鷲見守りDAY参加者数が平均10人以上<br>・若鷲あいさつ見守り隊の参加者数が平均5人以上 | | | |
| | | | | ②若鷲あいさつ見守り隊への協力要請（保護者主導で実施する体制継続）→参加数集約→振り返り | | | | | | | | |
| | | | | ③若鷲見守りDAYの持ち方検討（「秋季大会激励会」、いのちの出前授業等）→参加数集約→振り返り | | | | | | | | |
| | | | | ＊保護者・地域の方々の学校運営参画意識の高揚につながる教育活動の創造・継続（ ○地域の母親・NPOとの連携「赤ちゃんとのふれあい体験」 ○学校関係者評価委員会の活用　○高齢者大学との連携〔岩美中での | | | | | | | | |
| ①地域の人に喜ばれ、人の役に立ち、②地域行事に積極的に参画することによって、地域から期待される生徒を支援する教師 | 町教育委員会、公民館、自治会、各地区の日常的な連携に努める。地域機関との連携を把握するニーズを確に | 地域からの参加要請があり、その都度町区でボランティアの募集をかけてもらった。<br>秋の行事についても継続して協力していく。<br><br>生徒質問紙での肯定的評価80% | ①町区別生徒会を活用しての地域行事への積極的参加の促し<br>②地域と連携した校外行事 | ①センター委員会からの情報提供→町区別生徒会の随時開催（行事事前）、教職員の参加、各地区からの情報の集約、生徒への広報 | | | 第2回町公民館長・主事会出席→生徒の地域行事への参加状況、意見の集約→来年度に向けて | ・地域の行事やボランティア活動への教師・生徒の参加率実績が昨年度を上回る。 | ・生徒質問紙調査項目18「地域の行事や活動に積極的に参加している」の肯定的評価が80%以上達成 | | | |
| | | | | ②地域と連携した校外行事の実施 | | | | | | | | |